



千葉動力車

高令者対策の確立へ！ストライキで闘おう

定年まで働き続ける労働条件を

ダイ改での要求

社員の年令構成にふまえ、動力車乗務員が安心して働くことのできる高齢者対策を早急に講ずること

動労千葉は、この間一貫して高齢者が安心して働ける労働条件を求めて、JR当局に要求し続けてきた。

ところが実際にはJR当局は、ダイ改の度に高齢者の職場を奪う施策を強行し続けてきた。外勤業務を「限定免許」によって検修職に行わせる、JR貨物にいたっては、外勤そのものを乗務員の仕事から検修の仕事にし

てしまう。一方で本線乗務員は前号にもあきらかにしたように、労働強化によって、とても運転士の仕事は五五才までつとまる仕事ではなくなつてきている。

現在、JRの社員の年齢構成が、分割・民営化の結果、その半数が四〇才以上といういびつな構造のなかで、高齢者の職種を切り捨てていくやり方には、人間的配慮が全

くないJR当局の本質が最もよく示されている。当局は、ただ「関連会社の拡大に取り組んでいかなければならない」というのみで、高齢者を出向の対象としてしか見ていない。

われわれは、こうした高齢者のみか四十才以上労働者をただ出向の対象としてしか見ていないJR当局にたいして、五五才さらには六〇才まで、安心して働ける職場と労働条件を求めて、ストライキで闘い抜こう。

一一二一日

総決起集△云へ全力結集しよう

いすみ鉄道支部 定期大会を開催

一九九一年二月十三日、勝浦市・民宿。猿ヶ城において、いすみ支部定期大会が、全組合員参加のもとに開催された。執行部を代表して五十嵐支部長、本部から水野執行委員のあいさつをうけたあと、五十嵐支部長による経過報告と運動方針についての提起、君塚書記長から八九年度決算報告及び九〇年度予算案の提起、つづいて、吉田会計監査員から会計監査報告がおこなわれ、討論に入った。

討論は、全員が第三セクター出向という状況を反映して、出向期間の延長問題、年々労働条件が改悪されている状況下での九一・三ダイ改の具体的内容(交番で本線営業乗務キロゼロとい

九〇年度役員

- 支部長 五十嵐浩吉
- 副支部長 沢 晴朗
- 書記長 君塚 時雄
- 乗務員会長 中村 英晴

JR西労組

JR総連を脱退表明 主導権めぐり「東」に反発

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組、約三万三千人)は十九日、大阪市内で第九回中央委員会を開き、大松委員長はあいさつで「JR総連は西労組への介入や批判を繰り返す。組織の自主性を認めない。総連との関係の断絶を提起する」と述べ、JR西労組がJR各労組で組織する全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連、約十三万七千人)から脱退する方針を明らかにした。正式な決定は大会の決議を経て行われるが、方針は支持される見通し。

JR総連の運営をめぐる、JR東労組に対する反発と、労働協約をさらに深める路線間への介入や批判を繰り返す。総連の自主性を認めない。総連との関係の断絶を提起する」と述べ、JR西労組がJR各労組で組織する全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連、約十三万七千人)から脱退する方針を明らかにした。正式な決定は大会の決議を経て行われるが、方針は支持される見通し。

JR総連は、国鉄の分割民営化に協力的な立場を取った労働組合として一九七七年、結成(当時鉄道労働、西労組を母体として)JR東日本、東海など各会社との労組で構成されている。総連の運営については、かつて総連に加盟し、激しい闘争を続けていた動労と、早くから労働協約締結を掲げてきた同盟加盟の鉄労の間に、以前から主導権をめぐり争いがあり、八七年七月には鉄労が総連から脱退、約一週間後復帰したことがあった。

JR総連の危機が

ついに表面化

十九日開催されたJR西日本労組(三万三千人)の定期中央委員会で大松委員長(旧鉄労)は、委員長あいさつで「JR総連から脱退」の意向を表明した。JR総連の主要単組である西日本労組の今回の「脱退」表明は、従来からくすぶっていた「スト権」をめぐる革マルによるJR総連支配に端を発したものであり、JR総連の危機をもっとも端的に示している。